

九艘川公園魅力化プロジェクト

編集：役場建設水道課 2019.9.3

第1回ワークショップを開催しました!

9月1日(日)、16名の皆さんにご参加いただき、九艘川公園魅力化プロジェクトの第1回ワークショップを開催しました。

このプロジェクトは、中歌町にある九艘川公園を人が集まる魅力的な空間に変えていくためにどうしたらよいかを話し合い、計画をつくり、少しずつ実行していこうというものです。

「ワークショップって何か難しそう。」「自分の意見を言うのは苦手。」という方もいらっしゃるかもしれませんが、気にしなくても大丈夫。ちょっとお菓子をつまみながら、「楽しく」公園の魅力化について考えていくのが、このプロジェクトです。

進行役、全体の話し合いを中立の立場から導いていただくファシリテーターは泉花奈さん。泉さんは、函館市都市景観審議会委員を務めているほか、函館大門地区活性化、子ども食堂、コレクティブハウスの普及などの活動にも取り組んでいる方です。

また、アドバイザーとして池ノ上真一さんにご参加いただきました。池ノ上さんは9月1日付けで札幌国際大学観光学部の教授に就任。都市計画や観光の専門家として、これまで江差町のまちづくりにもご協力をいただいている方です。

まずは、「九艘川公園」について知ることから。

九艘川公園について考えるためには、まずは、九艘川公園を知るところから。江差町教育委員会の宮原学芸員が「九艘川」の名前の由来について解説。九艘川の地名の由来は諸説あるとのこと。ただ、江戸時代半ばぐらいから「九艘川町」という地名があり、「クソウガワ」という「音(おん)」によって、いろいろな由来を考え出していることがうかがえるそうです。

このあと、役場の職員から江差町内の公園の状況について説明。また、これから公園の魅力化を考える上での参考として、公園リノベーションや公園の利活用の事例紹介を行いました。

九艘川公園を見に行こう!

公園は住民の憩いの空間。でも、ふだん、近くを通っていても、なかなか公園の中に入ることがないのが現状。

いざ公園に行ってみると、いろいろな発見が。九艘川公園の「ここがすごい」「ここが変、ここが謎」「こうなったらいいね」3つの視点を意識しながら公園を見学しました。



ワークショップの様子



ファシリテーター：泉花奈さん
(「みそソムリエ」の資格も持ちます。)



教育委員会・宮原学芸員による解説

「石垣が立派」「すべり台がすべらない・・・」「土蔵トイレはどうしたらいいのか・・・」、見学中もいろいろな意見が。

公園見学の後は、樋の沢にあるフラワーマスターの皆さんが管理している苗畑を訪問。「ここにこういう苗畑があるんだ～」と新たな発見も。



休止中の土蔵トイレ



公園の板塀



園内のすべり台

「九艘川公園」を見て感じたことを共有

公園見学後、九艘川公園の「ここがすごい」「ここが変、ここが謎」「こうなったらいいね」の3つの視点で感じたことを「ふせん」に書き、用意した模造紙に貼り付けていきます。

泉さんが「ふせん」に書かれた感想を読み上げながら、参加者全体で共有をしたあと、参加者の皆さんからも感想を伺いました。

最後に、アドバイザーの池ノ上さんから総評をいただき、第1回ワークショップは終了しました。



総評

公園はまちの人のもの。でも、まちの人のために使われていなかった面も。それを変えていこうというのがこの取組。まち全体の話をしながらか、この公園をどうしたらいいか、自分たちが使うならこういう風に使いたいとか、そういう意見が聞けて良かったと思います。

子どもたちに入ってもらって一緒に考えてもらうのもいいかもしれません。



アドバイザー：池ノ上真一さん



第2回ワークショップのお知らせ

日時：9月16日(月・祝)
午前10時～

場所：江差町保健センター(役場内)

第1回ワークショップに参加できなかった方も大歓迎!
中学生・高校生の参加もお待ちしています。
お問合せは、役場建設水道課まで(☎52-6714)